



となん

【学校教育目標】

- 【知】自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 【徳】豊かな心を持つ生徒
- 【体】健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



9月1日は「防災の日」

災害時給食の提供

9月1日は、「防災の日」です。まず、この日を防災の日とした経緯を紹介します(東京消防庁HPから)。https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/learning/elib/qa/qa_59.html

9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和34(1959)年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害(全半壊・流失家屋15万3,893戸、浸水家屋36万3,611戸、死者4,700人、行方不明401人、傷者3万8,917人)を被ったことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。

次に、「災害時給食の提供」については、下地調理場(武井絵理さん)の企画です。目的は、「災害時の食事をする事で『命をつなぐための食事』について理解する。災害時における備え等の必要性について理解するとともに、学校給食を通して家庭への啓発を図る。」こと。具体的な内容は、「ビニール袋を使用し、自分でおにぎりを作って食べる。乾物を利用した献立の提供。炊き出しでよく提供される具だくさんの豚汁の提供。」です。メニューは、「①自分で作るわかめご飯おにぎり、②豚汁、③マカロニサラダ、④りんご、⑤牛乳」でした(画像の通り)。



武井さんからは、「災害時に活用できる食材・献立を『生きた教材』として活用することで、もしもの時への備えとして理解するとともに、『食べ物への感謝の心』を育みながら、子どもたちが災害時の心構えを身につけ、防災に対する理解を深めることを期待します。」とのコメントが寄せられています。

ぜひ各家庭でも話し合ってみてくださいね。

第42回 宮古地区中学校
1年生・2年生バレーボール大会

1年男子「準優勝」
2年女子「準優勝」



8/30(土)・31(日)の2日間、みだしの「第42回宮古地区中学校1年生・2年生バレーボール大会」が伊良部島中学校で行われました。

本校から男子は上野との合同で、女子は単独チームで「1年の部、2年の部」に出場しました。男子は発足したばかりで相手に圧倒されっぱなしですが、1年の部で準優勝に輝きました！1年女子は、北に敗れ4位。2年女子は、予選を2勝で勝ち上がり、準決勝も平良Aに競り勝って決勝へ。決勝では北に及ばず0-2で破れ、準優勝に終わりました。次の大会は「優勝」を勝ち取りましょう！



「心をひとつに 夢の先まで！」

オンラインです

運動会を成功させる集会



8/27(水)放課後、「運動会を成功させる集会」をオンライン配信で行いました。体育専門委員会の琉斗さんから「運動会プログラム」「役割(仕事分担)の説明」が行われました。私の激励の挨拶の中で、みだしに示した「心をひとつに夢の先まで！」に触れましたね。覚えていますか(甲子園・沖尚)？

「第78回運動会」は、9/21(日)です。成功に向けて一緒に頑張ってください！

第56回全沖縄ジュニア陸上競技選手権大会
男子 U16 1000m

友利謙心さんは4位入賞



8/30(土)・31(日)の2日間、第56回全沖縄ジュニア陸上競技選手権大会が沖縄県総合運動公園陸上競技場(沖縄市)で行われ、友利謙心さんが男子U16 1000mにエントリーしました。謙心さんは、自己ベスト、表彰台を目指して力走しましたが、一歩及ばず4位という結果でした。タイムは、2分44秒28。同種目のトップはなんじいACの港川孟昂さん、タイムは大会新記録の2分39秒09だったそうです。

本校正門付近の見通しが良くなりました

丸進土木さんによるせん定作業



登下校の際、正門付近がすっきりしていることに気付いた人も多いと思います(左の画像参照)。これは夏休みに、教育委員会からの依頼を受けて、丸進土木

さんが行ったものです。

そして、正門をよく見てみると、学校表示「宮古島市立下地中学校」が見やすくなっていることにも気がつきませんか？

これは、1学期末に2年生の平良匠さんと教頭先生と一緒に作業したそうです。まさに、「匠の技」ですね！

余談になりますが、今月から「ブーゲンビレアの花いっぱい咲かせようプロジェクト(仮称)」が始動しています(参加者募集中です)！



8/31(日)沖縄タイムス「ひと粋」

宮古島アララガマボーイズ
主将 津嘉山琉空さん



8/31(日)の沖縄タイムス「ひと粋」に、地元で開催された「第16回全国離島甲子園」で8年ぶりの全国制覇を成し遂げた宮古島アララガマボーイズの主将、津嘉山琉空さんの記事が掲載されていましたので紹介します。次は、宮古島ドリームズ硬式野球部での活躍に期待しております……。

離島甲子園でV達成

ひと粋

津嘉山琉空さん(14)

中学野球「離島甲子園」で宮古島アララガマボーイズの主将を務めた下地中3年生。地元初開催で「プレッシャーはあったけど強い気持ちで挑んだ」と8年ぶりの優勝に導いた。5校からの選抜で、結成前はライバル同士だった。

「最初はみんなしゃべりにくい感じだった。練習を重ね、今では『マブダチ』。最高の



仲間です」と振り返る。「来年も優勝してほしい」と連覇を後輩に託した。(宮古島)



となん

【学校教育目標】

- 【知】自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 【徳】豊かな心を持つ生徒
- 【体】健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



9/6(土)第40回宮古地区少年の主張大会

本校代表の長間結愛さん「優良賞」に輝く!

9月6日(土)午前、みだしの「第40回宮古地区少年の主張大会」が未来創造センター多目的ホールで開催されました。本校代表

は、木曜日の学校朝会でリハーサルをした2年A組長間結愛さん。演題は「その一言が未来を拓く」でした。本番はトップバッターで緊張したと思いますが、素晴らしい発表で聴衆に感動を与えてくれました。結果は惜しくも「優良賞」でした。では、発表原稿を紹介します。

その一言が未来を拓く

宮古島市立下地中学校2年 長間 結愛

「私の言うこと、変に思われな
いかな。」学級会や授業中、部活の
ミーティング、私はいつもこんな
風に思ってしまい、自分の意見が
言えません。言いたいことが言え
ずに後悔するのですが、その場にな
るとやっぱり口から声が出てこ
ないのです。だからいつも、誰かが大きな声で意見
を言ってくれるのを待っていました。共感するよう
にならず、安心して、誰かの意見の陰に隠れて
いたのです。



そんな私を大きく変えるきっかけがありました。
それは、「期末テスト得点アップ大作戦」というク
ラス会議です。自分に合った勉強法が分からず、悩
んでいる人が多いというクラスの現状から、「全員
でどのような取り組みをするか」という内容で話し
合いました。私はただその様子を見ているだけで、
いつものように何も言えずにいました。そんな時、
一人の子が声を上げ、「家庭学習が上手な人のノー
トを見せ合う」という意見を出し、その意見を元に
他の子が「グループで一冊の家庭学習ノートを回し
てリレーをする」という提案をしました。この意見
が、クラスの取り組みを変えました。自分がいつも
やっている家庭学習だけでなく、他の人の内容も見
ることができるため、いつもの学習方法が合わな
ければ、他の人のページを参考にしてやり方を変え
ればいい、ということに気がしました。私は、学習方
法を変えたことで、期末テストで自分の過去最高
点を更新でき、クラスの平均点もアップしました。一
人の意見が、みんなの考え方や行動を変えたので
す。

この経験を通して、「前向きな意見」は、誰かの
背中を押すことにつながるのだと実感しました。そ
して、「次は、私も自分の意見を誰かに伝えられる
ようになりたい」と思うようになりました。その時
から、私も少しずつ行動することにしました。授業
中のグループでの話し合いで、自信はありませんで

したが、勇気を出して意見を言いました。すると、
みんなが「いいね」と反応してくれ、全体の意見で
も取り上げられました。小さな一歩ですが、私の中
で自信がつき、意見を言うことを以前より怖がら
ないようになりました。

意見を伝えるためには、それを伝えやすい周りの
「空気」も必要です。聞いている人の態度がよくな
かったり、否定的な意見が多かったりすると、自分
の考えを受け入れてもらえるのか分からず、本当に
言いたいことが言えなくなってしまいます。また、
一度その空気を作ってしまうと、それを壊すのは難
しいと思います。ちょっとしたリアクションやうな
ずきなど、意見を言いやすい雰囲気を作ることで、
互いを理解し、尊重し、「伝え合う」という、意見
を言うことの大切さを知ることができるのではない
でしょうか。私が受け入れてもらえた嬉しさを実感
したように、誰もが安心して話せるような雰囲気作
りを、私自身も心がけていきたいと思っています。

人には、それぞれの価値観があり、私たちはこれ
からも多くの人との「違い」を実感するでしょう。
互いに認め合い、分かり合うためには、「伝える力」
だけでなく、「聴き合う力」が必要です。そして何
より「自分の考え」を持つことが大切だと思います。
ささいなことでも自分で考えてみることで、広い視野
で見つめてみることで、お互いの意見を交流すること
……。私たちの日常生活の中に、そのチャンスはた
くさんあります。その積み重ねが、小さくても確か
な変化を生むはずですよ。



「私の言うこと、
変に思われな
いかな」と、周りを気
にせず、勇気を出
して自分の思いを
言葉にしてみませ
んか。その一言が
一つの行動とな
り、私たちの未来
をより良くすると
信じて。

☆8/31(日)沖縄タイムス掲載

自然豊かな「島が大好き」



学校生活



丹野清彦

空港から一歩出ると汗がにじんできました。太陽が頭の真上にあるようで、私の影が短いです。宮古島市の下地小学校を訪れました。子どもたちに「テーマは宮古島や下地小学校です。それを川柳にしてみよう」と呼びかけました。

◆宮古島 そばがおいしい
海きれい(上地鈴華)
シンプルさがいいですね。

◆人と海 二つは同じ

④宮古島市立下地小学校

あたたかさ (上地好華)
人と海をあたたかさでまとめるとは、いい感覚です。

◆生きている 自然豊かなこの島で(池城莉桜)
実に堂々と自分がこの島で生きていくことを表現していて、力強さを感じます。本当に宮古島が大好きなんですね。すると、

◆宮古島 移住するならここがよし (下地莉桜)
みんなの前で読むと、子どもたちが「確かに」と相づちを打ちます。そこへこんな川柳が。

◆宮古島 スタバがなく悲しいよ(宮國瑠暉)
◆宮古島 夏は台風で学校休み (川端瑞紀)
視点をずらしてくる子は面白いですね。こういう子

児童と先生のいい関係



児童にとっても自慢の宮古ブルーの海

を特に大事にしたいです。大事にしていると他の子どもも自分を出せ、自由度が高まりそうです。

では学校の特徴はどんなことが、書いてもらいました。

◆昼休み いつの間にか短過ぎ (本田ルイス)
コロナ禍の頃、子どもを早く家庭に帰そうと多くの学校で休み時間が短くなりました。子どもからすると、たっぷり学校で遊びたいというところでしょうか。

◆学び合い 意見交換友達と (匿名希望)

「学び合いつて何?」。子どもたちに聞き返すと、「子ども同士で考える、教えることだよ」「1年生の頃からしている」と返してきました。「へえ、それって楽しいの?」。さらに聞き込むと答えはこうでした。

◆学び合い わからなくても 教え合う (前泊玲旺)

◆悩むなら 一人でやらず 友だちと (古波蔵季織)
コロナが流行した頃は、給食でも透明な仕切り板があり、授業で班学習は取り

やめ、個別学習を強いられました。でも子どもたちの川柳を読むと、「人と関わりの学ぶことは、学習ができるようになる喜びだけでなく、仲間を感じるんだ」と書いていました。

ただ「自分たちで考えろ」式の放任では、かえってトラブルも起きるので、子どもにも評判がいいのは、下地小学校の先生方が教え方を工夫した成果でしょう。その一端が次の句です。

◆先生は 面白くないが笑っちゃう (高原功輝)
◆先生は いつもやさしい ありのまま (川満瑠衣)

子どもとのいい関係が見えてきました。私も今日はありのままに過ごしてみようかな。うーん、それも勇気いるなあ。

(琉球大講師、元小学校教諭) 随時掲載



となん

【学校教育目標】

- [知]自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳]豊かな心を持つ生徒
- [体]健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



9/12(金) オンライン開催で小中連携

台湾国際交流報告会

秋とは名ばかりで、暑い日が続いております。みだしの「台湾国際交流報告会」は、9/12(金)5校時、パソコン室をメイン会場にして、各教室へのオンライン配信の形式で開催をしました。小中連携の一環として、小学校では5・6年生も参加したそうです。ねらいは、次の通りです。

- (1)台湾国際交流に参加した団員全員の活動報告を行う場とする。
- (2)生徒や保護者、市教育委員会等に報告を行うことで、本事業を広く周知させるとともに、今後の交流事業を充実・発展させる場とする。

【9/17(水)「宮古新報」掲載記事を引用します】

……生徒たちは、スクリーンやプロジェクターを使い、クイズを交えながら現地での体験や学びを交代で発表。国際交流を通じて広い視野を育み、コミュニケーション能力を高めた成果を共有した。

同校は台湾台中市の漢口國民中學との交流を26年間続けており、今回で派遣は21回目。8月14日から19日までの期間、生徒らは現地でのホームステイや学校交流を通じて台湾文化を体感した。

報告会では、異文化理解や相互尊重の大切さを学んだこと、台湾の生徒との友情を深めた様子などを紹介した。

崎山校長は「国際交流事業は互いに学び合い、成長する機会。広い視野を持ち、よりよい国際交流につなげてほしい」と挨拶。



同行し、通訳などを務めた羽地芳子さんは「当初は不安もあったが、生徒たちは自ら積極的に取り組み、安心した」と述べた。

生徒代表として上地うららさんが「報告会を通して台湾に興味を持ち、行ってみたいと思う仲間が増えるとうれしい」と語り、感想を述べた。※報告会の後に、団員から「羽地芳子さんへの感謝状」を贈りました。謝謝。



令和7年度「全国地域安全運動」「全国暴力団追放運動」に向けた標語の県内選考結果

川満鈴乃さん(2年生)の作品が「佳作」に入賞

嬉しいニュースが飛び込んできました。みだしの、『全国暴力団追放運動』に向けた標語で、2年の川満鈴乃さんの作品「暴力団 かかわらないで すぐ相談」が、地区選考「最優秀」を経て、県内選考で「佳作」に入賞しました！

因みに最優秀作品は「暴力団 強い心で 追放だ(中部商業高校2年生:根川聖空さん)」でした。



画像：静岡県警察

下地中学校 「花いっぱいプロジェクト」

「笑顔いっぱい」「ありがとう」がいっぱい

台湾国際交流報告会や運動会と忙しい中ですが、前回予告したみだしの「下地中学校花いっぱいプロジェクト」が始動いたしました。

ねらいは、次の通りです。

- (1)校内の緑化、環境の整備を通して、生徒の豊かな心の醸成を図る。
- (2)地域や外部と連携した取り組みを通して、ふるさとを愛する心を育てる。
- (3)花や植物を育てることを通して、生徒や教職員のリフレッシュを促進する。

子ども達の持つ下地中のイメージにも「花いっぱい」と語っていることもありますが、今回は「強歩大会当日に、ブーゲンビレアの花を咲かせようプロジェクト」が始動しました。講師は、ユートピアファームの上地登さんです。顔合わせでは皆緊張の面持ちでしたね。今回は、鉢替え作業でした。古い土を入れ替える作業だけでなく、ブーゲンビレアの根を切る作業（大手術!?!）も行いました。今後は、鶏糞の追肥や、せん定作業などを行い、強歩大会当日の11/30（日）に花いっぱいにするというプロジェクトになります。



上地登さんからは、「下地中の子ども達はみんな素直で、長時間の作業にも文句を言わず頑張ってくれた。今後も楽しみ。」

来を駆ける下地中へ～」達成に向けては、個人で、学級や縦割り班で、各専門委員会等できることを再確認し、揃っていなかったところをしっかりと揃えて、本番を迎えましょう。運動会が「世陸（世界陸上）」を超える感動を分かち合える行事になりますように……。

本プロジェクトは、今回のような行事に向けて

運動会が「世陸（世界陸上）」を超える感動を分かち合える行事になりますように……。

花園の整備、給食センター裏の学校農園の整備なども含まれます。今後も、どのように展開していくか楽しみになりました。

保護者や地域の皆さまも、「花いっぱいプロジェクト」に対する理解と協力をお願いいただき、「笑顔いっぱい」「ありがとう」がいっぱいの下地中学校（下地地区）にしていきたいと思います。



いよいよ明後日9/21（日）は

令和7年度 第78回 下地中学校「運動会」

第78回運動会が、いよいよ明後日に迫りました。本番に向け、9/17（水）は運動場の整備、翌18（木）は、運動会リハーサルを行いました。



運動会リハーサルでは、入場から「開会式」、「準備体操『エビカニクス』」、「空手『普及型Ⅱ』」のあと、全校生徒による円陣で気合いを注入しました。

「縦割り班リ

レー」は、欠席者が多くバトンを繋ぐことのできないチームがあったため、5人のみの実施でした。全女子による「リズムダンス」、全男子による「与那覇のヨンシー」「川満の棒踊り」が続きました。「5色の綱引き」は縦割り班を「SHI」と「MOJ」それぞれ3チームを合同とした2チームで競いました。今回は先に2勝した「SHI」チームが勝ちました（「作戦タイム+円陣」をしたチームが勝ちましたね）。「学級対抗障害物スウェーデンリレー」は、障害物なしで競いました（2年生が速かったですね）。そして「（下地）クイチャー」「閉会式」を行い、リハーサルの日程を終えました。

運動会スローガン「『闘志躍動』～限界と闘い、未とのお褒めの言葉をいただきました。達成に向けては、個人で、学級や縦割り班で、各専門委員会等できることを再確認し、揃っていなかったところをしっかりと揃えて、本番を迎えましょう。運動会が「世陸（世界陸上）」を超える感動を分かち合える行事になりますように……。



となん

【学校教育目標】

- [知]自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳]豊かな心を持つ生徒
- [体]健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



9/21(日)

令和7年度 第78回 下地中学校「運動会」

9/21(日)「令和7年度 第78回宮古島市立下地中学校『運動会』が本校運動場で開催されました。晴れ渡る秋空の下(にわか雨による2度の中断もありましたが)、多くの保護者、来賓の皆さまに会場いただき、誠にありがとうございました。

下の画像は、生徒一人ひとりの思いを記したメッセージ「運動会頑張るぞ!」です。



さらに「五色の綱引き」では全校生徒が一体となり、会場に大きなかけ声が響いた。

また、地域文化の継承として、「与那覇のヨンシー」「川満の棒踊り」が披露され、大きな拍手を受けた。生徒達は互いの健闘を称え合い、笑顔で締めくくった。

※この記事には誤った情報がありますよね。友だちや家族と探してみましょう。

☆次に、プログラムごとに画像を通して振り返ってみましょう。

【入場行進】

【9/24(水)「宮古新報」掲載記事を引用します】
記事の見出し「闘志燃やし未来へ駆け

伝統芸能の継承 ヨンシーと棒踊り響く」

「闘志躍動～限界と闘い、未来を駆ける下中へ～」のスローガンのもと、第78回下地中学校運動会が21日、同校運動場で開かれた。全校生徒約120



人が参加し、地域住民や保護者の声援を受けながら多彩な競技に挑んだ。

開会式後は、縦割り班リレーや親子二人三脚、障害物リレーなどで力強い走りを見せた。女子生徒57人によるリズムダンスでは息の合った演技で観客を魅了。



【準備体操+普及形Ⅱ】



【円陣】



【縦割り班リレー、親子二人三脚】



【川満の棒踊り】



【リズムダンス】



【障害物スウェーデンリレー】



【クイチャー】



【3年生によるサプライズ】



【閉会式】



【与那覇のヨンシー】



【運動会の終了後】





となん

【学校教育目標】

- [知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳] 豊かな心を持つ生徒
- [体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



9/8(月)から着任した

長濱靖先生を紹介します

9/8(月)から、富元麻美先生の代わりに着任した「長濱靖先生」を紹介します。

☆長濱靖先生

- ①出身地：宮古島市平良
- ②所持免許状：中学校教諭一種(音楽)



- ③勤務歴：久松中→宮古養護学校→北中→平良中→伊良部中→福嶺中→平良中→北中→下地中
- ④座右の銘：「何とか成る」
- ⑤趣味・特技：バイク(今は乗っていない)、トランペット(昔のように吹けない、その他楽器も吹けますよ)
- ⑥皆さんへのメッセージ：2~3学期の間ですが、一所懸命頑張りますのでよろしくお願いします。

☆長濱靖先生には、3Bの担任、全学年の音楽、特別支援教育CO、吹奏楽部顧問などを担当してもらっています。よろしくお願いいたします。

令和7年度 第78回下地中学校運動会

各賞の報告をします

前号では、画像ばかりの紹介だった「令和7年度第78回下地中学校運動会」について、各賞の報告を伝え忘れていましたので、紹介いたします。

各賞については、校長、PTA会長の津嘉山健さん、同副会長の平良和樹さん、来賓の羽地芳子さんの4人の厳正なる(?)審査の結果、決定したものと

です。それでは、紹介いたします。

1 縦割り班(S・H・I・M・O・J)

- ①「崎山用彰賞(すべてにおいてパーフェクト)」O班
- ②「めげずで賞(ひたむきに頑張る姿)」S班
- ③「魂の叫び賞(熱い応援)」M班
- ④「全力ダッシュ賞(全力の走り)」I班
- ⑤「粘り切ったで賞(粘り強く諦めない)」J班
- ⑥「逆転賞(見事な逆転劇)」H班

2 学級賞

☆「最優秀学級賞」3年生



☆☆ おめでとうございます ☆☆

平良匠さん(2年生)の活躍

「匠の技」その②・その③

みだしの「匠の技」を、画像を通して紹介します。

☆「匠の技その②」円卓のニス塗り。丁寧に、そしてピカピカに仕上げてもらいました(円卓は2台あります)。



☆「匠の技その③」「図書館」表示のペンキ塗り。正門の学校表示のように、とても見違えりました。次の活躍に期待をしております。



☆明日から十月(神無月)です。
「十月の生活目標」を確認しましょう。

読書で
自己を高めよう

- 図書館を積極的に活用しよう
- 読書行事に参加しよう
- 本を大切に扱うようしよう



9/21(日)~9/30(火)は、
秋の全国交通安全運動週間です。

みだしの「秋の全国交通安全運動週間」が、9/21(日)から9/30(火)まで実施されています。また、9/30(火)は「交通死亡事故ゼロを目指す日」だということです。

「全国重点」は、次の通りです。

- 【全国重点】**
- ① 歩行者の安全な道路横断方法等の実践と反射材用品や明るい目立つ色の衣服等の着用促進
 - ② ながらスマホや飲酒運転等の根絶と夕暮れ時の早めのライト点灯やハイビームの活用促進
 - ③ 自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルールの理解・遵守の徹底とヘルメットの着用促進

◎宮古島市HP掲載のポスターを紹介します。



**「つける」「見つける」
反射材 ライト 安全確保**

秋 9月30日(火)は「交通死亡事故ゼロを目指す日」

秋の全国交通安全運動

【運動期間】令和7年9月21日(日)~9月30日(火)

歩行者の安全な道路横断方法等の実践と反射材用品や明るい目立つ色の衣服等の着用促進
ながらスマホや飲酒運転等の根絶と夕暮れ時の早めのライト点灯やハイビームの活用促進
自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルールの理解・遵守の徹底とヘルメットの着用促進

内閣府
交通安全ポスター



**「つける」「見つける」
反射材 ライト 安全確保ゼロ!**

9月30日(火)は「交通死亡事故ゼロを目指す日」です
みんなで交通ルールを守って交通事故をゼロにしましょう!

1. 歩行者の安全な道路横断方法等の実践と反射材用品や明るい目立つ色の衣服等の着用促進

歩行者も安全な道路横断方法を意識しましょう
反射材用品や明るい色の衣服を着用しましょう

●横断歩道がある場所では横断歩道を利用し、道路端に横断する際道路をしっかりと見渡して安全を確認してから渡りましょう。
●スマートフォンの操作やイヤホンで音楽を聴きながらの歩行や横断は、注意が分散になり、車の横断や緊急の状況に気づくのが遅くなるので危険です。
●反射材用品や明るい色の衣服は、夕暮れ時や夜間、雨の日だけでなく曇りや霧の日でも効果的です。反射材用品や明るい色の衣服で、周囲からの注意を喚起しましょう。
●自転車や歩行者、他の歩行者にとっても、明るい色の衣服を着用することで、夕暮れ時などの暗い状況には、反射材用品を着用して使用しましょう。

2. ながらスマホや飲酒運転等の根絶と夕暮れ時の早めのライト点灯やハイビームの活用促進

ながらスマホや飲酒運転は絶対にダメ!
夕暮れ時はライト、夜間はハイビームを活用し安全性を高めましょう

●運転中のスマホの操作や飲酒の注目は危険視をされ、運転操作を妨げる重大な危険行為です。
●飲酒運転は判断力、集中力、運動能力を著しく低下させる危険な行為です。
●ながらスマホ、飲酒運転、あおり運転は、自分だけでなく周りの人も巻き込む重大な交通事故につながる極めて危険な行為であることを認識し、自ら見守りましょう。
●夕暮れが早まる季節、夕暮れ時に歩行者の道路横断時の交通事故が多発します。早めのライト点灯で事故のリスクを減らしましょう。
●ハイビームは、遠方の歩行者や自転車、障害物などを早期に検知することができ、加減速も早くなります。対向車や先行車がいない場合は、ハイビームに切り替えましょう。

3. 自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルールの理解・遵守の徹底とヘルメットの着用促進

自転車や特定小型原動機付自転車の交通ルールを理解しましょう
ヘルメットは命を守ります

●自転車や特定小型原動機付自転車(いわゆる電動キックボード)にも交通ルールが定められています。
●自転車の「ながらスマホの禁止」や「酒気帯び運転」に対する罰則が厳格化されています。
●特定小型原動機付自転車では、交通ルールを無視した交通事故が多発傾向です。
●交通ルールを正しく理解して、安全で安心な運転をお願いします。

●自転車や特定小型原動機付自転車で走行中、万が一、交通事故の被害者となっても、ヘルメットを着用していれば、頭を保護し、死のリスクを大幅に軽減させることができます。
●ヘルメットを着用することで交通事故被害も減ります。家族や友人にもヘルメットは命を守るものとして着用を呼びかけましょう。

秋 【運動期間】令和7年9月21日(日)~9月30日(火)

内閣府

【9/19(土)「宮古新報」掲載記事の一部を引用】
「ゆとりある運転で事故防止 秋の交通安全運動始まる 宮古地区出発式」

2025年秋の全国交通安全運動宮古地区出発式が19日、宮古島市役所2階大ホールで開かれた。市や警察、交通安全関係団体などが出席し、交通事故防止に向けた決意を新たにしました。運動期間は21日から30日までの10日間で、「反射材 わたしと輝く 夜の道」をスローガンに掲げる。式後、保健センター前でパトカーや防犯協会車両などが車両パレードに出発し、参加者らが手を振って見送った。……



の道」をスローガンに掲げる。式後、保健センター前でパトカーや防犯協会車両などが車両パレードに出発し、参加者らが手を振って見送った。……

◎交通安全について、私たちができることは何でしょうか？自転車通学の様子を見ると、ヘルメット着用率の低さや、一部に整備不良自転車も見られます。歩行者の際はどうか？突然の事故に巻き込まれないよう「自分の身は自分で守る」意識も必要になります。この機会を捉えて「交通安全」について、家族や友だちとも話し合ってみましょう。